社会福祉法人わかすぎの森　平成27年度事業報告

2．基本方針

1、法人に関わる一人ひとりが保育をめぐる情勢を学び、構成員としての力をつけて法人の機能を高めていきます。
2、子ども、保護者、職員が共に育つことができる保育、行事、人間関係づくりを目指します。
3、子ども、保護者、職員の幸福に向けて、専門家や専門機関との連携・協力を広げていきます。
4、保育者がいきいきと専門性を高めていくことを保障します。
5、子どもと家庭の福祉の増進に関わる運動や組織へ積極的に参加し、法律や施策の改善を求めていきます。
6、保育園の専門性と機能を生かし、地域の子育て支援センターとして力を発揮していきます。

3．事業方針

・27年度の計画・総括と28年度計画

項目	中間評価	総括
経営		
①長期的な法人経営・財政基盤の充実を目指し、これまでの保育所運営の実績を生かせる多様な事業を企画する。 ②助成金などの申請に取り組み、施設整備・施設運営の支援をする。 ③保育情勢や法人運営について継続して学習する。 ④新保育制度や新会計制度に対応した規定の見直しを継続して実施する。 ⑤社会福祉法人の制度改革に対応するべく、法人機能の整備・強化に取り組む。 ⑥新制度導入や社会的情勢の変化に対応した「基本方針」の検討を行う。 ⑦篠栗町の現状を把握し、地域に支持されるやまのこの独自性（強み・良さ）を発揮する方針を構築する。 ⑧町内の他の保育園と交流や学習を通して、篠栗の保育を高めていく。 ⑨（療育支援事業） 地域の障害を持っている子どもと親の支援を取り組む	①　未検討 ②　申請しているが、受諾されているものはない ③　理事会にて今後も学習をすすめる ④　理事会において新制度についての学習をした ⑤　理事会で検討中 ⑥　対応した規定づくりを進めている ⑦　・⑧・⑨ 町内の私立保育園の情報交流を定期的に開催 篠栗町の保育という観点での支援事業を取り組んでいる	①　施設整備の検討をして、計画的に行っている 多様な事業などについては、職員体制をもっと充実させてからの展開というのが当面の見解。 ②　中間に同じ ③　継続的に理事会で学習を進めている ④　福岡県保育経営懇談会で学習したことの共有化を図っている ・職員と理事役員全員との懇談会を開催し、職員の処遇についてや法人としての方向性について話あった。 ・運営規程の検討を丁寧に行い、法人運営の基本方針を決めた ・新会計サービス区分に改定し施行し始めた。 ⑦・⑧・⑨ 健康課・発達支援センター・町内六園合同で「特別な支援が必要とする子どもと大人が安心して生活するために」の研修会を企画開催し、今後も継続していこうとなった。
施設運営		
（保育 ①　異年齢保育の発展 ・異年齢においての行事づくり、各年齢の発達保障を保育計画化する ・理論学習・異年齢保育の実践園の見学を取り組む ②　環境の充実 ・森の道・北側園庭が雨水で土が削れているので整備が必要 ・広く直線のスペースが多く、室内で走ってしまう子どもが多いので、環境設定の工夫をする	①異年齢における描画活動の在り方等課業のやり方を検討している ・理論学習は未達成のため、 ②・雨水対策としては、植物を植えている ・森の道の整備ができていない。保護者会の協力を得るなど働きかける ・東側の柵の補強は修了	①　異年齢保育も　下クラスは３年目　大人も慣れてきて活動がやりやすくなってきた 上クラスは２年目　隣のおうちとの連携など大人も子どもも関わりが深くなってきた（保護者も）4 ②　環境の見直しが必要 ・大雨で土山や、森の道が削れてしまう、また夏は草が生い茂り、使えなくなるので、定期的な整備が必要

・園庭東側の柵の補強をする ・たんぽぽ・なのはなの前室を整備をする ③　教材の充実 ・基本図書の充実と絵本のコーナーの設定をする ④　保育・環境の安全性 ・個人の安全の意識や注意力だけでなく、システムとしての安全の保障をしていくために、職員会議の中で共有確認の時間を設定する ⑤　食育の充実	・環境整備の月間などの工夫で整備が進んでいる ③・未達成 ④安全マニュアルを再考し、職員会議で確認する計画を立てている	（職員でできること、業者などに依頼するところなど職員で点検を行った） ③　下クラス各おうちに絵本棚購入 ・社協より寄付　絵本の充実につながっている ・各年齢にふさわしい絵本がまだまだ必要 ④　個別に危険個所を見つけると事務室へ連絡をし、解決方法を探るという状況 ⑤　クッキングに給食室も参加し、見直しをした
（職員）（研修）		
①　職員が働き続けられる環境をつくる（処遇・勤務体制・休暇） ・主体的で規律のある職場をつくる ・働き甲斐を持てる職場をつくる ・保育の力が育つ場をつくる ・協働する職員集団をつくる ・バーンアウトしない体制をつくる ・リフレッシュできる休暇体制を前進させる ②　職員が主体的職務遂行をできる仕組みを充実する。 ・運営会議毎週１回開催 ・リーダー会・職員会議・給食会議・上下クラス会・クラス会がボトムアップ型になっていくため、さらにシステムを改善する。 ・会議の準備段階から職員が関わる工夫をする。 ・「自分育ちプログラム」の取り組みを発展させる。 ③　研修計画が園全体と職員ごとの目的意識的な学習になるようにしていく ④保育問題研究会や保育センター等の研究会・国集会等に参加し、保育への視点を豊かにする。 ・九州合研で実践提案する	①　リフレッシュできる連日の有休がとれる体制づくりができている ②・運営会議の定例が課題 ・自分育ちプログラムの実施 ・各会議の合理化と充実できる工夫をしている ③　研修計画(集団・個別)をもっと進める ④　九州合研に３才児の取り組みで提案する	①　お互いに休暇を保障しあう中で、協働の意識が高まっている。いいとりくみになっていると思われる。 ・パワハラ対策　その後の職員の変化 主体性や安心感 ②　運営会議が継続できていないと、園全体の仕事がうまくまわっていない 主任が年度途中からクラスに入ることになり、定例化が難しくなった ・職員会議はグループ討議が定着し、自由に発言できている ③　職員に研修についてのアンケート実施 自分で学びたいこと 園としてみんなで学びたいこと
（より良い保育を進める活動）		
①　社会福祉法人制度の改正等大きく変わっていく保育情勢について、職員一人ひとりが伝えていけるような学習の場を設定したり、他の学習の場に参加する。 ②　保護者と共に子どもたちの発達保障と保護者の就労を保障する保育についての理解を深めていく。	①　職員間の情勢学習が不足している ②　学ぼう会が地道に署名についての取り組みや学習を進めている	①　保育をめぐる情勢学習については自主的に参加した保育研究集会の中で学習しているが、園内での学習はもう少し時間を取りたいと感じている。 ②　保護者も参加する行事等で新制度についてや子どもたちの発達についての理解を深める取り組みを重ねている
（保護者）		
①　保護者との関係 ・保護者同士や職員との関係がより良いものになる企画をする ・懇談の中で保護者同士が交流できる企画も工夫する ・保護者会の企画行事や会議へ積極的に協力する ・係活動の保護者の主体的な取り組みを支えていく ・今後の参考の為、保護者会の活動の記録ができるように支援していく	①　・懇談会の取り組みへの検討を続けている ・保護者会の係と職員の共同・参画が発展している	①　保護者との関係 ・熱心な保護者役員の方々に支えられ、保護者と園が連携できるような行事づくりができた。 ・子どもたちの育ちの状態をとらえ直し、懇談会で何を伝えたいか、職員会議で学習・検討を重ねた。

②お便り ・子どもたちの成長を共有する紙面として充実する工夫をしていく ・保護者の交流の場としての活用もする ・子育ての学びの紙面も工夫する ⑤　月刊誌「ちいさいなかま」を活用し、子育て力を高めていく支援をする。	②　・保育士のお便りの記録の力量が高まっている ・お便りがもっと保護者と保育を共有できる工夫をする ③　保護者への発信が不足している	そのことをもとに各担任は懇談会の内容を工夫し、多くの保護者から、子育てについて見直す機会になったという感想があった。 ・保護者会の学ぼう会で「1歳半・9歳の節」等の発達についての学習を重ねた。参加者の輪はまだ少ないがメディアの学習等今後も継続していきたいテーマへの要望が出されている。 ②　お便り(毎日の子どもたち集団の様子の記録等記載) 毎日のお便り作成を通じて、ねらいをもっての保育や記録の力が高まってきている。個人ノートよりたくさんの要素があるお便りだが、活字離れの時代、もっと保護者が読みたくなる内容が課題である。 ③　お便りや園だよりにちいさいなかまの記事からの引用などを取り組んだ。
地域とのつながり		
①　地域の保育園に対するニーズとして ・愛着形成を促すベビーマッサージ ・乳幼児期の子育てで大切にしたいことを学ぶ場 (特に1・2歳児のぶらぶら期の重要性についてなど) ・家庭にいる子どもたちの友達と遊ぶ場 ・地域のお母さんの交流の場 ・障害を持っている子どもの遊びの場、交流の場 上記を対象として、園庭解放だけでなく、母親向けの学びの場や交流の場を設定する ・ベビーマッサージ参加後に育児についての講演や交流の企画をする ・育児支援について、保健師とのコミュニケーションを積極的にしていく。 ・金出夏祭りのやまのこの遊びのコーナーを計画的に準備していく (OBの子どもたちに参画を企画する) ②　地域との関係として、金出の清掃活動を取り組む	①　・ベビーマッサージの取り組みは毎回予約待ちが出るほど好評。 ・ベビーマッサージを終了した母子に向けてのアフターケアを始める ・園庭解放への利用者が増えており、ここへの働きかけ・取組が課題 ・ ②　地域の方と食を通しての交流の場を後期に設定する予定。 ・保護者の交通ルールについて苦情が出たこともあり、地域との関係づくりについて積極的に行いたい	①　ベビーマッサージの地域支援は定着してきた。 ・ベビーマッサージの参加者のアフターケアとして1歳半の節についての学ぶ会を開催し、好評だった。 ・園庭解放については、特段の働きかけができる体制を作ることができなかった。 ②　おひなさまの行事に地域の方を招待して、子どもたちとの交流や食事を楽しみ、保育のスライドを鑑賞していただいた。とても好評だった。 ・金出の夏祭りの子どもコーナーの参加は恒例となった。